

頁	項目	誤	正	修正箇所
23	第2章 31	バックアップに関する説明として正しいものはどれか。 ① スナップショット機能を利用すれば、バックアップ中に変更されたファイルもバックアップできる。 ② バックアップの作業中であってもユーザーはファイルを更新できる。 ③ RAIDを導入しサーバーを保護していても、定期的なバックアップは必要である。 ④ 増分バックアップは差分バックアップよりも短い時間でバックアップすることが可能。 バックアップとリストアに関する説明として誤っているものはどれか。 ① バックアップの対象を絞込むことで、バックアップやリストアにかかる時間が短縮される。	バックアップに関する説明として正しいものはどれか。 ① スナップショット機能を利用すれば、バックアップ中に変更されたファイルもバックアップできる。 ② バックアップの作業中であってもユーザーはファイルを更新できる。 ③ RAIDを導入しサーバーを保護していても、定期的なバックアップは必要である。 ④ 差分バックアップは増分バックアップよりも短い時間でバックアップすることが可能。 バックアップとリストアに関する説明として誤っているものはどれか。 ① バックアップの対象を絞込むことで、バックアップやリストアにかかる時間が短縮される。	選択肢④
23	第2章 34	① バックアップの対象を絞込むことで、バックアップやリストアにかかる時間が短縮される。 ② リストアのための予行演習をしておくことは万の際に重要である。 ③ フルバックアップは、バックアップ時間、リストア時間ともに長くなる。 ④ 増分バックアップは、差分バックアップよりも短時間でリストアすることができる。	① バックアップの対象を絞込むことで、バックアップやリストアにかかる時間が短縮される。 ② リストアのための予行演習をしておくことは万の際に重要である。 ③ フルバックアップは、バックアップ時間は長くなるが、リストア時間は短くて済む。 ④ 増分バックアップは、差分バックアップよりも短時間でリストアすることができる。	選択肢③
28	第3章 13	L3デバイスについて誤った説明をしているのは次のどれか。 ① L3デバイスは、複数のネットワークインターフェイスを持ち、それぞれのインターフェイスには異なるネットワークを接続できる。 ② L3デバイスはPPPoE機能を持っておらずISPへの接続はできない。 ③ 送られてきた信号を必要に応じた宛先へ中継する機器である。 ④ L3デバイスはOS参照モデルではデータリンク層に分類される。	L3デバイスについて誤った説明をしているのは次のどれか。 ① L3デバイスは、複数のネットワークインターフェイスを持ち、それぞれのインターフェイスには異なるネットワークを接続できる。 ② L3デバイスはPPPoE機能を持っておらずISPへの接続はできない。 ③ 送られてきた信号を必要に応じた宛先へ中継する機器である。 ④ L3スイッチは、イーサネット同士の接続に特化した機器で、ネットワークを結合するときに用いられる。	選択肢④
28	第3章 14	レイヤ3スイッチに関する説明として正しいものはどれか。 ① スウィッチングハブの機能を有したルーターのことである。 ② ルーターより高速に経路選択を行う。 ③ VPNルーターと呼ばれる。 ④ ネットワーク層に関する情報を利用してデータを転送している。	レイヤ3スイッチに関する説明として正しいものはどれか。 ① スウィッチングハブの機能を有したルーターのことである。 ② ルーターより高速に経路選択を行う。 ③ VPNルーターと呼ばれる。 ④ パケットの転送機能をソフトウェア上で行うため、高速に処理できる。	選択肢④
30	第3章 21	TCP プロトコルの特徴として誤っているものはどれか。 ① コネクションレス通信 ② セキュア通信 ③ 3-Way ハンドシェイク ④ 確認応答	TCP プロトコルの特徴として誤っているものはどれか。 ① コネクションレス通信 ② 通信の信頼性 ③ 3-Way ハンドシェイク ④ 確認応答	選択肢②
35	第4章 8	セキュリティインシデント発生時の対応として正しいものはどれか。 ① 被害拡大を防ぐために、該当サーバーを即座に停止した。 ② インシデントの具体的な内容を把握するために、社員から聞き取り調査を行った。 ③ セキュリティ被害による損失より、サーバー停止による損失の方が大きいと判断されたので、運用を継続した。 ④ 復旧が遅れたため、復旧作業の記録は重要な事項にとどめた。	セキュリティインシデント発生時の対応として誤っているものはどれか。 ① 被害拡大を防ぐために、該当サーバーを即座に停止した。 ② インシデントの具体的な内容を把握するために、社員から聞き取り調査を行った。 ③ セキュリティ被害による損失より、サーバー停止による損失の方が大きいと判断されたので、運用を継続した。 ④ 復旧後、再発防止策およびそれまでの過程の情報公開を行った。	問題及び選択肢
43	第5章 5	Windows のシステムの復元に関する説明として誤っているものはどれか。 ① 復元ポイント以後にPOPで受信したメールはすべて消えてしまう。 ② 復元ポイント以後にインストールしたアプリケーションはそのまま使用できる。 ③ 復元ポイントの時点で感染していたウイルスは削除される。 ④ 復元ポイント以後のWindows Update は最新版が適用されている。	Windows のシステムの復元に関する説明として誤っているものはどれか。 ① 復元ポイント作成後にインストールしたアプリケーションはそのまま使用できる。 ② システムの復元を行ってもユーザーが作成したファイルやメールのデータには影響がない。 ③ システムの復元を行ってもユーザーが作成したファイルに感染していたウイルスは削除されない。	問題及び選択肢
43	第5章 7	カーネルフェーズに問題がある場合のトラブルに該当しないものは次のどれか。 ① GUI を使用できない。 ② OS が起動しない。 ③ フリーズや再起動を繰り返す。 ④ BIOS/UEFI を起動できない。	カーネルフェーズに問題がある場合のトラブルに該当しないものは次のどれか。 ① ブートローダーが起動できない。 ② OS が起動しない。 ③ フリーズや再起動を繰り返す。 ④ ログオンができない。	問題及び選択肢
44	第5章 12	② ストップエラーはイベントログに書き込まれない。	② ストップエラーはイベントログに書き込まれる。	選択肢②
45	第5章 14	パソコンを起動したところ、スキャンディスクが実行された。考えられる原因として可能性の低いものはどれか。 ① Windows を正常にシャットダウンしなかった。 ② BIOS の設定を変更した。 ③ 周辺機器を変更した。 ④ メインメモリが故障している。	パソコンを起動したところ、スキャンディスクが実行された。考えられる原因として最も可能性の低いものはどれか。 ① Windows を正常にシャットダウンしなかった。 ② BIOS の設定を変更した。 ③ モニタを変更した。 ④ メインメモリが故障している。	問題及び選択肢
46	第5章 19	メールの送信はできるのに、受信だけできない場合のトラブルシューティングとして適切でないものはどれか。 ① メーラーの受信アカウント設定の確認 ② デフォルトゲートウェイのアドレス設定確認 ③ クライアント側のIPアドレスの設定確認 ④ SMTP サーバーへのping	メールの送信はできるのに、受信だけできない場合のトラブルシューティングとして適切でないものはどれか。 ① メーラーの受信アカウント設定の確認 ② ファイアウォール設定の確認 ③ クライアント側のIPアドレスの設定確認 ④ SMTP サーバーへのping	選択肢②
46	第5章 20	メールに関する説明として正しいものはどれか。 ① POP before SMTP が原因でメールが送信できないことがある。 ② ネットワークが利用できるのにメールが送信できない場合、POP サーバーに問題がある可能性が高い。 ③ POP サーバーのユーザー認証をSMTP サーバーへの接続に利用することができる。 ④ SMTP サーバーを利用するために、先にPOP サーバーでユーザー認証を行う仕組みをS/MINEと呼ぶ。	メールに関する説明として正しいものはどれか。 ① 送信サーバーにPOP before SMTP が設定されていることでメールが受信できないことがある。 ② ネットワークが利用できるのにメールが送信できない場合、POP サーバーに問題がある可能性が高い。 ③ POP サーバーのユーザー認証をSMTP サーバーへの接続に利用することができる。 ④ SMTP サーバーを利用するために、先にPOP サーバーでユーザー認証を行う仕組みをS/MINEと呼ぶ。	選択肢①
49	第5章 30	③ システムクロックとも呼ばれる。	③ ハードウェアクロックとも呼ばれる。	選択肢③
49	第5章 32	② 送信先のコンピューターのファイアウォールで接続を拒否されている。	② 送信先のコンピューターと正常に疎通している。	選択肢②
63	第3章 19	③ ダイナミックルーティングでは、常に動的なルートを更新しなくてはならないため、L3 デバイスのCPU 負荷率やメモリ消費が多くなります。	④ ダイナミックルーティングでは、常に動的なルートを更新しなくてはならないため、L3 デバイスのCPU 負荷率やメモリ消費が多くなります。	解答
63	第3章 24	② 【「付録」 P56 ■ RTP】	② 【「付録」 P.57 ■ RTP】	参照ページ番号
63	第4章 7	① 【1級テキスト P.174 4.2.1 ISMSの管理策】	① 【1級テキスト P.175 4.2.2 情報セキュリティポリシー】	参照ページ番号